# 2016年9-10月：JaCVAM活動マンスリーレポート

| NO. | 項　　目 | 記　載　内　容 |
|---|---|---|
| **新聞** | | |
| 1 | 発表者名もしくは掲載者名 | 小島　肇 |
| | 記事名 | 皮膚実験　動物使わず |
| | 掲載紙及び掲載日時　※ | 日本経済新聞，平成28年9月2日 |
| | 掲載内容（150字以内） | 資生堂と花王が開発した実験をせずに皮膚のアレルギー反応などを検査する手法がOECDの国際的な試験法として承認された. |
| **和文総説** | | |
| 1 | 著者名 | 小島　肇 |
| | 総説題名 | 医薬品に係わる新添加物の安全性評価 |
| | 雑誌名、巻（号）、ページ、年 | 月刊ファームステージ，16（6），1（2016） |
| **国内学会** | | |
| 1 | 発表者名 | 小島　肇 |
| | 演題名 | AOPの考え方，OECDによるAOPプロジェクトの目的，経緯と最終的なゴール |
| | 学会名，発表年月及び場所 | 第23回日本免疫毒性学会学術年会（2016.9）（北九州，福岡） |
| **国際学会** | | |
| 1 | 発表者名 | Kojima H. |
| | 演題名<br>（和訳を括弧書きで記載） | International validation study on Hand1-Luc Embryonic stem cell test (Hand1-Luc EST): A reporter gene assay using engineered mouse ES cells evaluate embryotoxocity in vitro (Hand1-Luc 胎児幹細胞試験）の国際バリデーション研究：発生毒性をin vitroで評価するためのマウスES細胞を用いるレポーター遺伝子アッセイ |
| | 学会名，発表年月及び場所 | 5th Annual meeting of American Society for Cellular and Computational Toxicology（細胞および電算的毒性学のための米国学会第5回大会）（2016.9）（North Carolina, USA） |

| レギュラトリーサイエンス学会 | | |
|---|---|---|
| 1 | 参加者名 | Kojima H. |
| | 会議名（英文の場合は和訳も記載） | ICCR(International Cooperation on Cosmetics Regulations), Joint Working Group on Integrated Safety Assessment（化粧品規制協力国際会議　統合安全性評価ワーキンググループ） |
| | 開催場所, 年月 | Cosmetic Europe (Brussels, Belgium) (2016.9) |
| | 会議内容（150字以内） | ICCRのワーキンググループで取り組んでいる動物実験代替法を用いた安全性評価の見解書の骨組みについて議論した. |
| 2 | 参加者名 | Kojima H. |
| | 会議名（英文の場合は和訳も記載） | SACATM:Scientific Advisory Committee on Alternative Toxicological Methods（代替毒性試験に関する科学諮問委員会） |
| | 開催場所, 年月 | EPA (North Carolina, USA) (2016.9) |
| | 会議内容（150字以内） | 米国ICCVAM（動物実験代替に関する代替法省庁間連絡会議）の年次報告および来年度計画について米国専門家間で議論がなされた. |
| 3 | 参加者名 | Kojima H. |
| | 会議名（英文の場合は和訳も記載） | ICATM(International Cooperation on Alternative Test Method）代替法国際協調会議ワークショップ |
| | 開催場所, 年月 | ECVAM(Ispra, Italy) (2016.10) |
| | 会議内容（150字以内） | 皮膚感作性試験の行政的な受け入れに関する国際ワークショップが開催された. 欧米加韓中日の専門家および行政官が集い, in vitro 試験の行政的な利用について議論を交わした. |